

なのはなのおくりもの

なのかちゃんは 5さいのおんなのこ。

そらいろまちにすんでいます。

そらいろまちは、おおきなまちで、せのたかいビルがたくさんたち
ならび、くるまがびゅんびゅん はしっています。



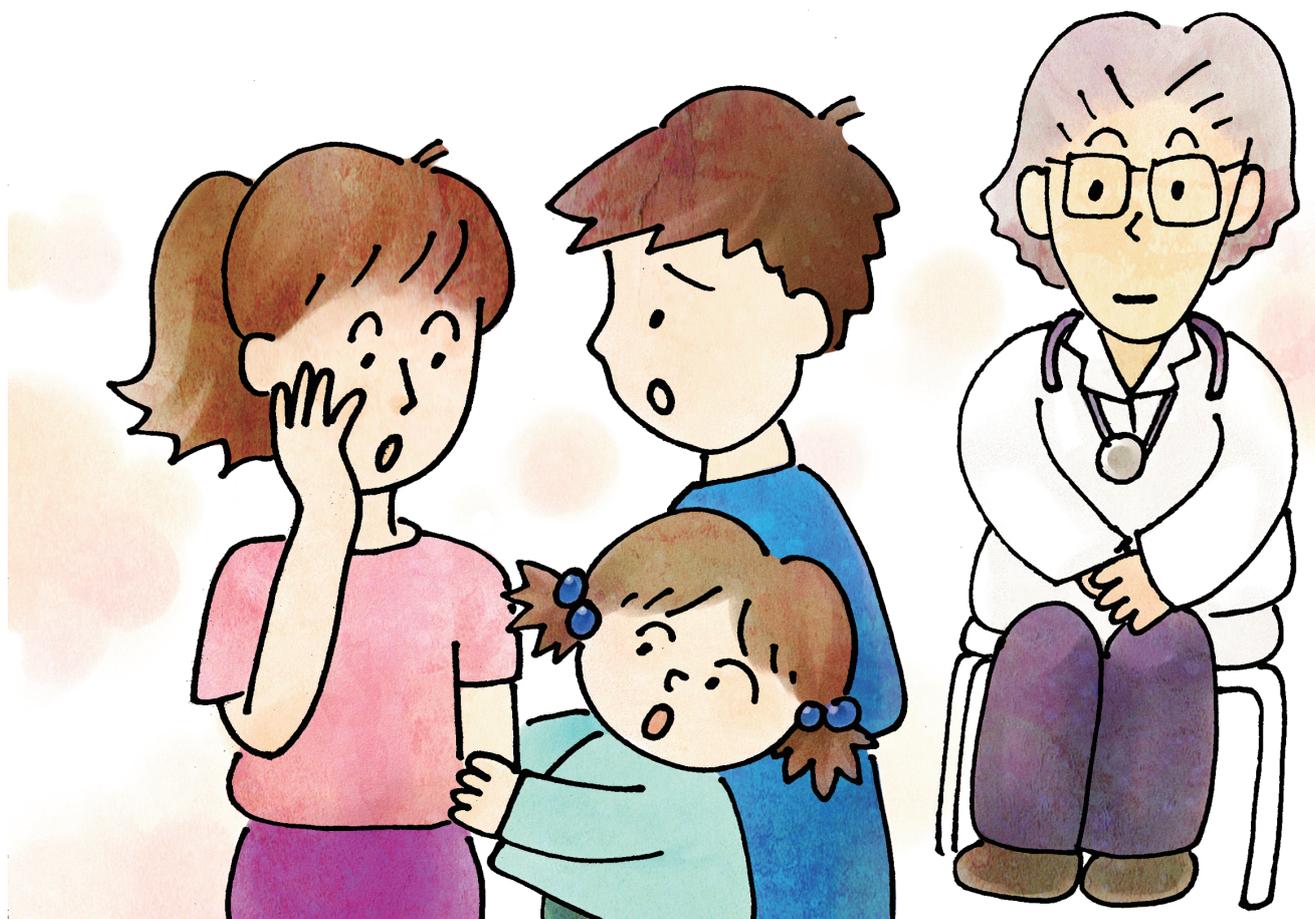
なのかちゃんは すてきなえほんやおにんぎょうをもっていました
が、すこしもたのしくありませんでした。なぜなら、なのかちゃんは
まいにち ゴホンゴホンとせきがとまらなくて、とてもくるしかった
からです。

しんぱいした おとうさんとおかあさんは なのかちゃんを びよ
ういんにつれていきました。

すると、おいしゃさまは いいました。

「このせきは そらいろまちの よごれたくうきのせいですよ。そら

いろまちのくうきが きれいにならないと なのかちゃんのびょうきは なおらないでしょう。」



なのかちゃんは とてもかなしくなりました。

かえりみち、おとうさんとおかあさんは とてもむずかしいかおを していました。

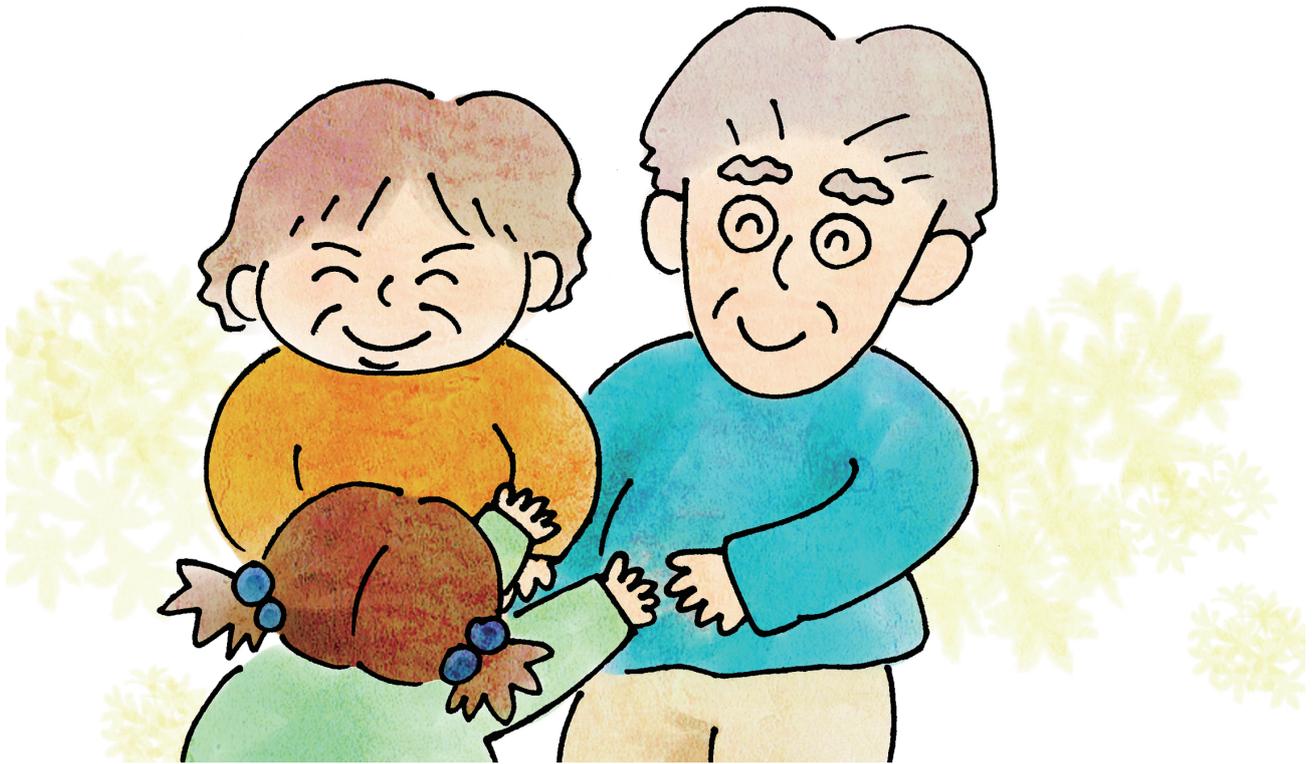
はるになりました。なのかちゃんは おとうさんとおかあさんといっしょに みどりやまにすんでいる おじいちゃんとおばあちゃんのおうちに でかけることになりました。

そらいろまちから みどりやまは とってもとおいのです。けれど、なのかちゃんのきもちが うきうきして みどりやまにつくころには すっかりげんきになっていました。ゴホンゴホンと とまらなかったせきも ぴたりととまっていたのです。 みどりやまには たくさん

のなのはなばたけがありました。

「なのかちゃん げんきにしていたかい？」

おじいちゃんとおばあちゃんが にこにこして むかえてくれました。



「うん、ここにきたら すごくげんきになったよ。そらいろまちではとても くるしかったのに。」

なのかちゃんがこたえると おじいちゃんは いいました。

「ここは、なんにもないけれど、くうきはきれいだからなあ。なのかちゃんのからだに いいんじやろ。」

「おいしゃさまも そういった。くうきがきれいになれば なのかのせきも なおるって。そらいろまちのくうきも きれいにならないかなあ。」

「それには、もっとそらいろまちに みどりをふやさんといかん。ここの のなのはなばたけを みてごらん。」

「きれいね。」

「きれいじゃろ。そして、それだけじゃないんだよ。なのはなや やまのくさやきは よごれたくうきを きれいにしてくれるんだよ。」

「ふうん、そうなんだ・・・」

なのかちゃんは おじいちゃんのはなしをきいたあと、なにか かんがえているようでした。



のやまで たのしく すごしていたなのかちゃん。

そらいろまちにかえるひが やってきました。

なのかちゃんは おじいちゃんとおばあちゃんに さよならをいうまえに ひとつのおねがいを しました。

「ねえ、おじいちゃん、おねがいがあるの。」

「なんだね？」

「なのはなのたねをちょうだい。そらいろまちへもってかえって まちをなのはなで いっぱいにしたいの。」

おじいちゃんはにっこりしました。

「いいよ。たくさんもってかえって まちのひとたちみんなに そだててもらいなさい。」

「ありがとう。」

なのかちゃんは、うれしいきもちいっぱい そらいろまちにかえりました。

おじいちゃんにもらった ふくろいっぱいのたねをもって。



それから なんねんか たちました。

ブツ、ブツ

なのかちゃんは まいにち、“なのはなごう”というバスで がっこうにかよっています。このバスは なのはなのたねからとれるあぶら

ではしるので そうよばれているのです。“なのはなごう”のまどからは、せのたかいビルと たくさんの なのはなばたけが 見えます。



あのひ、なのかちゃんをもってかえったなのはなのたねを まちのみんなが そだててくれました。そして、たくさんの“なのはなごう”がはしるようになりました。

まちのみんなは あまりくるまにのらず “なのはなごう” にのるようになりました。

もう、なのかちゃんは ゴホンゴホンとせきをしていません。

いまでは、そらいろまちは、『なのはなまち』とよばれているのです。